



メディアセンターでつながる学校をめざして

～学校図書館活用の概要について～

1. 和泉市立榎尾中学校について

榎尾中学校は大阪府の南部、和泉市の一番東側にある中学校です。校区の東側は山々が連なり、自然豊かな場所で学校の南側にはみかん畑が広がっています。また、弘法大師空海が高野山を開山する前に修行をしたと言い伝えのある榎尾山施福寺があり、歴史が感じられる地域でもあります。



学校の創立は1964年でおおよそ60年の歴史がある学校です。各学年2クラス、全校生徒数は108人の規模の学校です。1学期までは昭和の面影が色濃く残る校舎で過ごしていましたが、来年度から小中一貫の義務教育学校「榎尾学園」となるため、校舎の建て替えが行われました。今現在も来年度に向けてグラウンドなどの整備が行われているところです。中学生だけ一足早く新校舎での生活が始まっています。

2. 榎尾中学校区について

榎尾中学校区には2小学校（横山小学校・南横山小学校）1中学校（榎尾中学校）があります。山沿いにある学校ですが、大阪の北と南をつなぐ国道沿いにあり、流通には便利な場所です。ここ5～6年の間に親の仕事の関係で渡日生の在籍数が増えています。

3. 新しくなった学校図書館「メディアセンター」

新しくなった学校図書館は名称が「メディアセンター」と改名されました。生徒にとっての「読書センター」としての学校図書館、生徒にとっての「学習・情報センター」としての機能を備えた学校図書館、という点から情報を発信する中心という位置づけで名称と機能がリニューアルされたものです。子どもたちが「読書は楽しい」と感じ、いつでも本に触れられる環境づくりと、情報が氾濫する中から正しい情報を見分けるための文章を読み解く力を身につけるために、「メディアセンター」を学校の中心として位置付け、子どもの読書活動を推進しています。また、開放的なオープンスペースをいかして、子どもたちをはじめ、いろいろな人がコミュニケーションをとることができる場として活用しています。



4. めざす生徒像と学校図書館との関わり（SEとしてどのように、生徒の学びと学校図書館をつないでいくか）

「めざす生徒像」について

- ① [学び続ける人](#)（生涯学び続けることの必要性）
- ② [認め合いつながれる人](#)（多様性を認め合い、受けとめることの必要性）
- ③ [自ら行動できる人](#)（主体的に考え、行動ができることの必要性）

図書館教育の観点からSE担当者として実践していることは、言語能力（特に「書く力」、情報収集能力、情報活用能力、問題発見・課題解決能力の育成をめざして、学校図書館を活用した主体的、協働的な授業づくり、学校図書館と一人一台端末を有効活用した授業を推進することです。具体的には、「授業づくり」として、校務分掌の中にある校内学力向上委員会に参加し、生徒の学習状況の把握や定期的な授業見学、学校図書館を活用した授業デザインの提案とTT授業の実施を進めています。「図書館活用」として、図書館司書と連携しての図書や資料の精選、図書委員会と連携した読書活動の推進も行っています。これらの実践で、学校全体で本などの図書、学習資料や情報をつうじて、人と人、人と図書・情報がつながり、主体的にそして探求的に学びが深められる「学校図書館を活用した授業づくり」を発展させていこうという意識がたかまるようにエンパワメントしているところです。

SE担当者として実践していること

- ・学校図書館を活用した授業デザインの提案
- ・校内学力向上委員会への参加
- ・定期的な授業見学
- ・TT授業の実施
- ・図書館司書と連携して図書や資料の精選

5. 学びとつながる学校図書館

「学びとつながる学校図書館」という点から、特に授業での学校図書館の活用について紹介します。授業での活用については、主に資料の活用をつうじて、子どもたちが課題解決できるように、教科の授業者や図書館司書と協働して、提案や授業づくりのサポートを進めています。

中学1年生 社会科・地理の授業より（単元名「世界の姿」）



世界の姿について学ぶ授業の1コマに学校図書館を活用した国調べを行いました。あらかじめ、授業者と授業デザインを作成する中で、子どもたちが探求するための資料を選び、それを図書館司書に伝え、図書を集めてもらいました。子どもたちが興味関心を持って本を選びやすくするために、1冊1冊の表紙が見え、カテゴリー別に分けて陳列するなど工夫をしました。また、調べることで終わらないように、自分が調べたことを旅行先としておすすめする理由として再構築して、旅行計画として発表することで、生徒が「やってみたい」という意欲を持って主体的に課題に取り組めるようにしました。できあがった旅行計画書は一人一台端末（ロイロノート）を使って共有しました。子どもたちが資料と向き合い、それをもとに夢中で旅行計画書を作る姿を見ることができました。



中学2年生 美術科・絵画の授業より（単元名「透視図法で作品を創ろう」）

「透視図法で自分の世界をスケッチブックの半分に描いてみよう」という課題（めあて）の授業です。透視図法の技法を学んだ後に、透視図法を使った作品が載った図書を鑑賞し、グループでその作品の中で透視図法がどのように、効果的に用いられているのかを探し、共有しました。自分の作品を創っていく過程で、自分の作品を完成させるためにふさわしい技法を模索し、工夫しながら作品と向き合っている場面を見ることができました。



中学2年生 英語科の授業より（単元名「夢の旅行を企画しよう」）

自分が紹介したい国や地域を調べ、旅行を企画しプレゼンテーションを行う授業です。生徒が協働してプレゼンテーションが行うことができるように、図書館司書が学校内外から関係する書籍を集め提供しました。また、ALTとも協働することで、生徒が主体的に取り組む姿を見ることができました。

資料の中からプレゼンテーション資料として使えるものを選んでる様子



「はがき新聞」の作成について（各教科での取り組み）

学校図書館を活用した取り組みとして「はがき新聞」の作成を紹介します。「はがき新聞」とは、はがき大の用紙に授業で学んだことや体験したこと、自分の考えをまとめて新聞形式で表すものです。コンパクトなサイズで文字数も少ないので取り組みやすく、また文章だけでなくイラストや図表、写真などを入れて自由につくれるので、子どもたちの「書く力」や「表現力」を育むことができます。学力向上委員会の中で、今年度の全国学力学習状況調査の国語の調査結果をふり返った際、「自分の考えを工夫して文章で表現する力をはかる問い」でつまずきがみられました。はがき新聞の作成によって、考えをまとめる力を養うことで、改善に向けて取り組んでいます。また、できあがったはがき新聞を校内に掲示し、お互いの作品の感想を伝えあうなどして、友だちとの交流の機会を増やしていけるようにしていきます。



数学「平面図形のまとめ」



国語「おすすめの本」



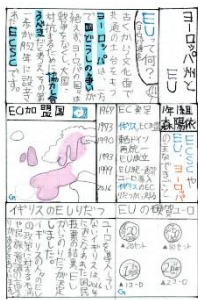
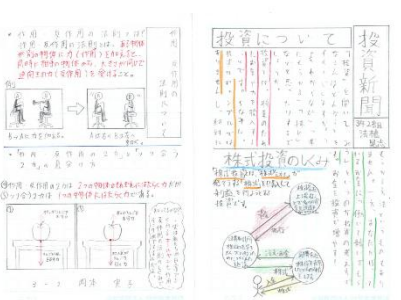
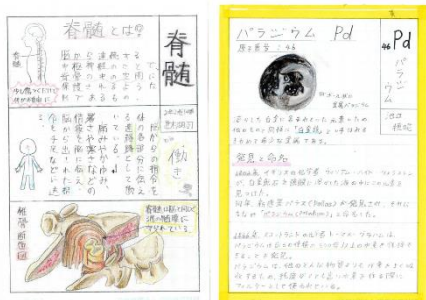
社会「地理 EUとは」



理科 「からだのつくりとはたらき」、「みんなでつくる元素周期表」、「テスト対策はがき新聞」



総合的な学習 等
「金銭・金融教育」
「修学旅行～沖縄調べ～」 等



6. 図書に親しむ学校図書館

メディアセンターの一角にはおすすめ本の紹介コーナーを設置し、図書委員会の生徒が書いたメッセージが掲示されています。榎尾中学校では朝の10分間を使って「朝の読書」をしています。生徒が読みたいと思う本が見つけれられるように工夫されています。合わせて、図書館司書による「図書だより」の発行や校内生徒で構成された図書委員会による「図書委員会だより」の発行も合わせて読書意欲の向上につながるよう進めています。年度末には全校集会で、貸出冊数ランキングの表彰も行っています。

また、国語の授業では「ビブリオバトル」を実施しています。ビブリオバトルとは、自分が面白いと思った本を持ち寄って3分間で順番に紹介し、その発表についてそれぞれ数分間のディスカッションを参加者全員で行い、最後に一番読みたくなった本を投票で決めるという活動です。



（おすすめ本紹介コーナー）

7. 一学期の成果（学習アンケートより） 左数値（R6.3月）→右数値（R6.7月）

- ・「本を読むことが好き」（63%→69%）
- ・「わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている」（74%→79%）
- ・「図書館資料などをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている」（85%→88%）

8. 来年度に向けて

総合的な学習の時間「榎尾学」

榎尾中学校では総合的な学習の時間の一環として「榎尾学」という地元について学ぶ活動を行っています。2年生では地元の特産品であるみかんを使ったみかんジュースのパッケージデザインや販売促進のための有効な手立てを子どもたちが考えています。実際に和泉市や民間会社とも協同して取り組みを進めているところです。今後、グローバルな活動として発信していくためにも、図書館司書と協同しながら、より多くの知識や情報を子どもたちが収集できるようにメディアセンターでの学習活動をより充実させていきたいと考えています。



（2年生の生徒が考えたパッケージデザイン）

台湾との国際交流プログラム

昨年度より、榎尾中学校では国際交流プログラムとして、台湾の2つの中学校（嘉義市立 蘭潭中学校・嘉義中学校）と生徒間で英語を使って手紙のやりとりを行っています。最初の交流では、自己紹介から始まり自分が好きな自国の祝日を紹介し合いました。その際、学校図書館を活用して日本の祝日について書かれた資料や日本の文化についての図書を図書館司書に集めてもらい、調べたことを英語にして手紙を送りました。そのスタートをきっかけに徐々に交流が深まり、1学期の終わりには自分が好きなお菓子をお互いに送り合って、交流をしました。来年度に向けて、2校間の国際交流活動がさらに深まるように、必要な情報を子どもたちが収集でき、メディアセンターとして学校図書館が活用されるように、関係する分掌や教科担当者、図書館司書と協同して進めていきたいと考えています。



（台湾からお菓子と手紙を受け取った時の様子）



（2中学校から届いた美術作品 鑑賞の様子）



--